

山王祭

4月12・13・14・15日

いにしえ人に還る——



山王総本宮

日吉神社

山王祭日程表

(時間は多少、前後する場合があります。)

日	時	祭典と神事	祭場	備考
3月 1日	毎夕	献 燈	奥宮両社へ献燈	4月12日まで
3月第1日曜日	午前 10:00 午前 11:30	神 輿 上 神 事	牛尾・三宮神輿庫前出発 牛尾・三宮奥宮到着	山麓の神輿庫から二社の神輿を奥宮へ渡御
27日	午後 6:30	真 榊 神 事	那波加神社～広芝	榊山から大榊を伐り出し広芝へ渡御
30日	午後 7:00	お い で 神 事	広芝～西本宮	広芝で降神、大榊を西本宮へ渡御
4月 3日	午後 7:00 午後 9:00	大 榊 神 事	西本宮～ ～天孫神社	大榊が坂本、下阪本の町内を練り歩いた後大津の天孫神社へ渡御
12日 (午)	午前 8:00	禊 神 事	大宮川	神職、駕輿丁
	午前 10:00	清 は ら い	走井のはらい所	神職、駕輿丁、一般参列者
	午後 5:00	午 の 神 事	町内練り歩き	駕輿丁、大松明の練り歩き
	午後 7:00		生源寺	読み上げ(駕輿丁の点呼)
	午後 8:30 午後 9:00		奥宮山頂出発 東本宮拝殿到着	牛尾・三宮両社から二社の [※] 荒魂を東本宮へ「シリツナギの神事」夫婦神の結婚を表すとされる
13日 (未)	午前 9:00	神 輿 出 し 神 事	西本宮・宇佐宮・白山宮	三社の神輿を西本宮拝殿へ渡御
	午前 9:30	神 輿 入 れ 神 事	東本宮・宵宮場	四社の神輿を宵宮場へ渡御
	午前 11:00	献 茶 祭	宵宮場	四社の神輿に日吉茶園の茶を献ず
	午後 1:00	花 渡 り 式	参道・宵宮場	稚児と甲冑武者の行列
	午後 3~5:00	未 の 御 供 献 納 祭	宵宮場・西本宮	京都市室町仏光寺の日吉神社から奉納
	午後 6:00	宵 宮 落 し 神 事	町内練り歩き	駕輿丁、大松明の練り歩き
	午後 7:00 午後 7:30 午後 9:00		生源寺 宵宮場 西本宮拝殿到着	読み上げ(駕輿丁の点呼) 上賀茂大神御出現の神事 山王七社の神輿が拝殿に総て揃う
14日 (申)	午前 8:30	例 祭	東本宮	東本宮より境内各社を巡拝
	午前 10:00	//	西本宮	天台座主による五色奉幣も行われる
	午後 1:00	御 浦 神 事	//	神馬の渡御
	午後 1:00	大 榊 還 御	//	大榊が天孫神社から還御
	午後 1:30	拝 殿 出 し 神 事	//	山王七社の神輿を拝殿から楼門前に還す
	午後 2:30	神 輿 神 幸	西本宮前参道	山王七社の神輿出発
	午後 3:00	船 渡 御	坂本～下阪本町内 七本柳	町内を七社の神輿が巡行 鎌倉時代頃の洪水をきっかけに始められた
	午後 4:00			
	午後 4:30	粟津の御供献納祭	唐崎神社沖	西本宮ご鎮座に緑の深い膳所五社による、御供を湖上にて献上
	午後 5:00	神 輿 上 陸	下阪本・比叡辻若宮港から日吉大社	町内を七社の神輿が巡行
午後 5:30	神 輿 還 御		各神輿庫へ納め奉る	
15日 (酉)	午前 10:00	酉 の 神 事	東本宮から各社	祭礼終了の御礼巡拝
	午前 10:30	船 路 御 供 献 納 祭	西本宮	旧志賀町鎮座の八所神社氏子中から御供献上

※荒魂・・・「積極的な性格をもつ神様」の意。逆に穏やかな性格をもつ神様を「和魂」という。

日吉大社へのアクセス

●電車で・・・

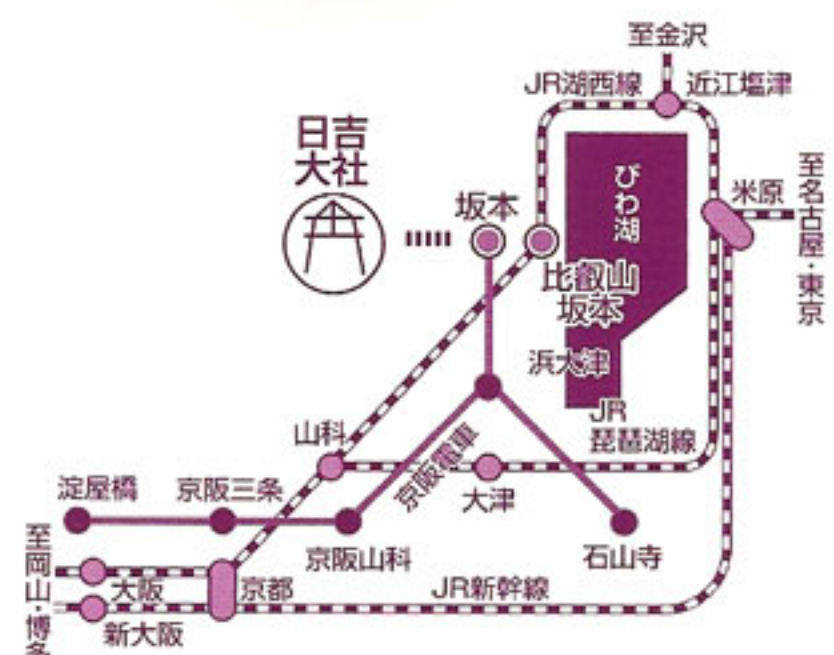
JR湖西線「比叡山坂本」駅下車…徒歩20分
京阪電鉄石山坂本線「坂本」駅下車…徒歩10分

●お車で・・・

名神高速道路京都東ICより
西大津バイパスを経て湖西道路(国道161号)
経由で「比叡山坂本駅前」を西へ

●祭り・観光・交通・宿泊については・・・

坂本観光協会 ☎ 077-578-6565
びわ湖大津観光協会 ☎ 077-528-2772



■山王祭解説

●^{おこしあげ}神輿上神事（3月1日）現在は第1日曜日

奥宮には金大殿と呼ばれる大きな※磐座があり、この磐座が日吉大社発祥の地と云われている。後にその磐座の左右に二社の社殿が建てられ、東側を牛尾宮（大山咋神の荒魂）・西側を三宮宮（鴨玉依姫神の荒魂）としてお祀りしている。神事では、比叡山の神が降臨する神体山（八王子山）山頂の奥宮（牛尾宮・三宮宮）へ山麓の神輿庫より神輿を担ぎ上げる。

※磐座・・・社殿が建立される前、神様は木や岩に宿るものとされていた。神様の宿る木を「神籬」、岩を「磐座」という。

●^{うま}午の神事（4月12日）

坂本の町々では一抱え程もある大松明に火を灯し、神輿の担ぎ手たちが練り歩く。生源寺にて「読み上げ」と呼ばれる点呼を行い、一同は神輿が奉安されている奥宮へと馳せ参じる。本殿より神様がお遷りになられた後、「鈴振り」の合図により松明に照らされながら山麓の東本宮まで一気に降る。かくして東本宮に入御の神輿は拝殿に奉安された後、神輿の後ろと後ろをつなぐ「尻繋ぎの神事」と呼ばれる大山咋神とその妃の鴨玉依姫神の御結婚を模した祭儀が行われる。

●神輿入れ神事（4月13日）

東本宮と樹下宮の神輿と前夜八王子山から渡御された両神社の神輿と合わせ四基が、次々に宵宮場の大政所へ渡御される。これを神輿入れと云う。拝殿の正面には産屋神社といって大山咋神と鴨玉依姫神（下賀茂神社御祭神）の御子神である鴨別雷神（上賀茂神社御祭神）を祀った社がある。

●献茶祭（4月13日）

日本最古の茶園と伝えられる日吉茶園でとれたお茶を宵宮場の大政所に奉安された四基の神輿に献じる。この祭の祝詞には「弘仁の御代から茶を献る」とあって、古い時代から御茶が安産にきくとの信仰により献っているとも伝えられる。

●花渡り式（4月13日）

武者姿の稚児たちが造花で華々しく彩られた大指物を引いて参道を練り歩く。御子神のご出産を祝うためと伝えられている。

●^{ひつじ}未の御供献納祭（4月13日）

次に未の御供を宵宮場の四基の神輿に献じ、続いて西本宮に献上する。この御供は京都の室町仏光寺の日吉神社氏子の人々によって、平安期から現在にいたるまで長く継続されてきた神事で、お供も矢・鏡・筆・人形・造花・菓子などで、平素神社の慣行として献っている神饌とは趣きを異にして、お生まれになる御子神に奉る品々と伝えられている。

●宵宮落し神事（4月13日）若宮誕生

夕闇迫る頃から四基の神輿を奉安した宵宮場の周辺は、三千人に余る参拝者でうすまり身動きも出来ない状況を呈する。その頃参道の石鳥居下附近で駕輿丁の勢揃い「つど」（つどいあつまるの略）が行われ、この勢揃いが終ると若人達は掛声勇ましく400メートルの参道を一目散に駆け登って宵宮場へと急ぎ大政所に奉安されている各自定められた神輿につき、その神輿を激しくゆさぶる。これは、鴨玉依姫大神の陣痛の苦しみを表すと伝えられている。神輿の前の猫足が空高くあがったかと思えば、次は後の猫足をあげ搦（しぎ）という台につくたびにドーンと激しい音が静かな夜陰に包まれた境内や坂本の町内に響き、社務所から500メートル以上も離れているが、この雄大な音は手にとるように聞こえ、坂本中が山王祭のるつぼへと化す。9時を過ぎる頃、神輿振りは最高潮に達する。そのころ四基の神輿は少しばかり前に進められる。その時、神輿の下ではササラの音と共に神楽を奏し、続いて山王祭委員長が祭文を奏上。それが終るや否や、扇の合図と共に「とび」が一斉に高さ1メートル余の大政所から飛び降りる。すかさず四基の神輿はドッと下に落とされ（御子神の誕生を表す）担ぐ棒が地につくや否や待ちうけた若人等が重い神輿を軽やかにかついで、近くの鼠社まで先を争う。そこで、行列を整え西本宮へと渡御になり、西本宮拝殿に奉安される。この時に初めて七基の神輿が一堂に揃う。

●^{こる}例祭（4月14日）申の神事（桂の奉幣）

翌4月14日早朝、東本宮の例祭が行われ午前10時、西本宮で例祭が行われる。拝殿には、前日着飾られた山王七社の七基の神輿が、所狭しと置かれ壮観そのものである。祭典は参進・修祓と始められ献饌・宮司祝詞奏上・献幣使、山王祭会長祭文に続いて天台座主の読経・宮司の桂奉幣（若葉の薫も豊かな桂の小枝で奉製された桂の幣）を行ない、終って桂の小枝を一本づつ参列者に授与。次いで桂を神輿に奉る。古くから厄除けのしるしとして貢がれてきた。やがて玉串奉奠等が行われ祭典は終了。

●神輿渡御（4月14日）（湖上巡幸）

去る、4月3日から天孫神社（四宮神社）へ渡御されていた大神が還御すると、神輿七基は駕輿丁の手によって次々に拝殿から春日岡へと移され、そのうち東西両本宮の神輿と他の二基の神輿は、若人達に担がれて参道を下り石鳥居に至り、他の三基の神輿は自動車を下り、下阪本の七本柳乗船所で合流した後、台船に乗せられる。宮司は、膳所より奉納の「栗津の御供」や膳所の神職・氏子達と共に唐崎神社から小舟に乗って、湖上を小波に送られて沖合に出る。小舟の上で数々の栗津の御供を、台船に奉安されている七基の神輿に献じ祝詞を奏上。この姿は平安朝の絵巻をくりひろげる感に打たれる。祭典後宮司は台船に乗り移り比叡辻の着船場にて上陸、膳所の人々は唐崎へと帰って行く。日は漸く日枝山に傾き夕闇につつまれた境内に七基の神輿は還御になる。

●^{とり}酉の神事（4月15日）

古式山王祭のすべてが無事終了したことを感謝し、酉の神事（巡拝）が10時に行われ、西本宮にて、船路の御供の奉納の後、4日間に渡る山王祭は結びとなる。



山王祭実行委員会

〒520-0113 滋賀県大津市坂本5丁目1-1
 日吉大社内
 TEL.077-578-0009 FAX.077-578-0134
<http://www6.ocn.ne.jp/~hiyoshi3/>